

## リウマチ膠原病患者へのプレコンセプション・ケアに関する看護師のニーズ調査

西村明子<sup>1)</sup>、神崎初美<sup>1)</sup><sup>1)</sup> 兵庫医療大学看護学部

## 要旨

目的：リウマチ膠原病患者へのプレコンセプション・ケア(以下 PCC とする)に関する看護師の学習ニーズを明らかにする。方法：日本リウマチ看護学会の会員 221 人を対象に Web 実態調査を実施した。Web 調査画面にアクセスできる URL を、対象者にメール配信し、画面上で研究説明と同意を得た。結果：87 人 (39.4%) から回答を得た。女性が 95.4%、職場は病院の病棟 16.1%、病院の外来 40.2%、教育機関 14.9% だった。PCC については「言葉だけ知っている」を含めると 67.8% の者が知っていた。PCC の内容については、「妊娠の疾患活動性への影響」は 94.3%、「疾患活動性の妊娠への影響」は 87.4% が知っていた。また 63.2% の者が妊娠・出産に関する相談を受けた経験があった。妊娠・出産について相談を受けることに「あまり自信がない」が 44.8%、「自信がない」が 26.4% であった。PCC に関する情報については 97.7% が必要であると回答した。結論：PCC のうち妊娠と疾患に関わる内容についての知識は有していたが、PCC を担うことについては自信がなく情報を求めていることが明らかになった。患者の妊娠のニーズをすみやかに把握し PCC の目的である妊娠アウトカムの向上に資するためにも看護師への PCC 教育プログラムを実施する必要がある。

キーワード：プレコンセプション・ケア、自己免疫性疾患、看護、実態調査

## Survey of Nurses' Needs Regarding Preconception Care for Patients with Rheumatoid Arthritis

Akiko Nishimura<sup>1)</sup>, Hatsumi Kanzaki<sup>1)</sup><sup>1)</sup>Hyogo University of Health Sciences

Keyword(within 5 words) : Preconception Care, Rheumatoid Arthritis, Nursing, Survey

## 緒言

近年、医療の進歩によりリウマチ膠原病患者の妊娠が可能になってきている。しかし、疾患のコントロールが不良な時期の妊娠では流産率が高いことや(Eudy et al.,2018) 妊娠前に胎児に影響の少ない薬に変更しておく必要があるなど、計画的な妊娠が望まれる(「関節リウマチ(RA)や炎症性腸疾患(IBD)罹患女性患者の妊娠、出産を考えた治療指針の作成」研究班,2018)。女性とそのパートナーを対象とした将来の妊娠のための健康管理に関するケアであるプレコンセプション・ケア(以下、PCC とする)が米国疾病管理予防センターにおいて始められ、WHO もこの取り組みを推奨している。その中で、慢性疾患を有する場合には、疾患の妊娠への影響や妊娠が疾患に与える影響や家族計画についての知識を持つ必要性が述べられている。

我が国においても産婦人科医師による PCC 外来が散見されるようになってきたが、自己免疫疾患患者にとって身近な存在である看護師が PCC についての知識を得る機会は極めて少ない。

そこで、今回、リウマチ膠原病患者をケアする看護師が PCC を実施するにあたり、どのような学習ニーズがあるのかを把握するために実態調査を行い、看護師への教育プログラムを検討する資料とする。

## 方法

1. 対象：日本リウマチ看護学会の会員 221 人
2. 調査期間：2021 年 5 月 1 日～6 月 15 日
3. 調査項目：対象者の背景、PCC の経験と自信の程度、PCC に関する知識、PCC に関する患者情報の把握、PCC に関する情報の必要性について調査した。合計 49 間で 10 分以内に匿名で回答できる内容とした。

4. データ収集方法：Web 上に「リウマチ膠原病患者へのプレコンセプション・ケアに関する看護師のニーズ調査」画面を作成し、Web 調査へアクセスできる URL を、日本リウマチ看護学会正会員 221 名にメール配信した。
5. 分析方法：回答内容は、CSV ファイルでダウンロードし、エクセルデータに変換し記述統計により分析した。
6. 倫理的配慮：本研究は、兵庫医療大学倫理審査委員会の審査を受け承認を得た(承認番号 20027)。Web 調査回答時の最初の画面に、匿名での回答、回答者のプライバシーは保護される、自由意思での回答で不参加でも不利益を受けることがないことについて記述し、回答者自身が同意書を読み「同意する」にチェックをして回答に進むようにした。さらに、途中で回答をやめることができる案内を記載した。

## 結果

## 1. 対象者の背景

会員 221 人中 87 人 (39.4%) から回答を得た。対象者の背景を表 1 に示す。性別は女性が 95.4%、年齢は 40 歳以上が 81.4% を占めていた。リウマチケアナースの資格を有する者は 67.8% であり、看護師歴は平均 22.5±10.1 年、リウマチ看護歴は平均 10.9±8.2 年であった。職場は病院の外来が最も多く 40.2% であった。職場に妊娠や育児について相談できる外来があると回答した者は 26.4%、妊娠・出産について相談を受けたことがある者は 63.2%、育児に関する相談を受けたことがある者は 39.1% であった。また、全員が妊娠・出産・育児に関して看護師からの情報提供が必要と回答したが、妊娠・出産、避妊についての患者からの相談に対する自信の程度は、「あまり自信がない」と「自信がない」の合計が 7 割を超えていた(図 1)。

表 1. 対象者の背景(n=87)

項目		%
性別	女性	95.4
	男性	4.6
年齢	20代	1.1
	30代	17.2
	40代	33.3
	50代	35.6
	60代以上	12.5
資格(複数回答)	リウマチケアナース	67.8
	看護師	79.3
	保健師	6.9
	助産師	2.3
職場	病院の病棟	16.1
	病院の外来	40.2
	診療所	21.8
	教育機関	14.9
妊娠・育児について相談できる外来がある		26.4
妊娠・出産に関する相談を受けたことがある		63.2
育児に関する相談を受けたことがある		39.1
妊娠・出産・育児に関して看護師からの情報提供が必要		100.0

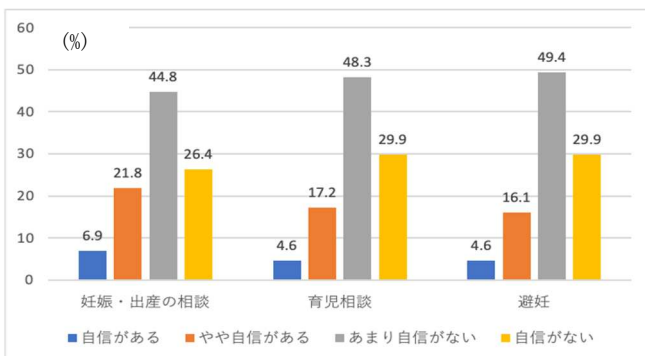


図 1 患者からの相談に対する自信の程度(n=87)

## 2. PCC に関する知識

PCC について「内容を含めて知っている」は 37.9%、「言葉だけ知っている」は 29.9%、「知らない」は 32.2%であった。PCC の内容については、「妊娠前からの葉酸摂取の重要性」以外は 8 割以上の者が知っていると回答した(表 2)。

表 2. PCC の内容についての知識(n=87)

プレコンセプション・ケアの内容	知っている(%)
妊娠の疾患活動性への影響	94.3
葉の妊娠への影響	94.3
計画妊娠の必要性	94.3
年齢による妊孕性の変化	90.3
疾患活動性の妊娠への影響	87.4
妊娠前の適正体重の重要性	80.5
妊娠前からの葉酸摂取の重要性	77.0

## 3. PCC に関する患者情報の把握

PCC に関する患者情報について把握する必要があるかどうかと実際に把握しているかどうかを「はい」「いいえ」で回答を求めた。その結果、喫煙について把握が必要と考えている者が 98.9%、実際に把握している者が 75.9%と最も多かった。妊娠希望の有無については 96.6%の者が把握が必要と考えていたが、実際に把握している割合は 65.5%であった。その他の項目については、6 割以上の者が把握が必要と回答したが、実際に把握している割合は 1 割から 5 割であった(表 3)。

表 3. 看護師が把握する必要がある情報と把握の状況(n=87)

情報	把握が必要 (%)	把握している (%)
喫煙	98.9	75.9
妊娠希望の有無	96.6	65.5
ワクチン接種歴	89.7	47.1
飲酒	88.5	52.9
パートナーの喫煙	83.9	31.0
避妊の知識	79.3	44.8
性感染症の有無	75.9	17.2
子宮がん検診受検歴	74.7	17.2
月経(周期や持続日数など)	69.0	11.5
パートナーのワクチン接種歴	65.5	13.8

## 4. PCC に関する情報の必要性

PCC に関する情報を必要としているかどうかを「はい」「いいえ」で回答を求めた結果、97.7%が必要であると回答した。また、どのような形態での情報提供が良いかを複数回答で求めた結果、Web サイト 87.4%、パンフレット 86.2%、書籍・講義 50.6%、その他 3.4%であった。

### 考察

看護師の PCC の学習ニーズを明らかにすることを目的に実態調査を行なった。PCC については「内容を含めて知っている」と回答した者は約 4 割で、「言葉だけ知っている」を含めても約 7 割であったが、妊娠の疾患への影響や疾患の妊娠への影響、計画妊娠の必要性など、疾患に関連した PCC の内容については約 9 割の者が知っていると回答した。今回、63.2%の者が妊娠・出産に関する相談を受けた経験があり、患者のニーズが高いことが要因の一つとして考えられる。関節リウマチ患者は、家族の反対や治療を中断することでの「妊娠への迷い」や、薬が胎児に与える影響や出産による病状の悪化などの「妊娠への不安」を経験しており(岡本, 2016)、妊娠前の女性は、妊娠の計画や出産、母乳育児に関する情報を求めている(Phillips et al., 2018)。これらの報告からも PCC のニーズが高いことは明らかである。また、ほぼ全員が妊娠・出産、育児に関して看護師からの情報提供が必要と回答しており、PCC の必要性を認識していることがわかった。

一方で疾患のケアに直接的な関わりの少ない、月経や性感染症の有無、がん検診などは、約 7 割の者が把握する必要があると回答しているが、実際に把握している割合は約 2 割と少なかった。Phillips ら(2018)は、医療従事者へのインタビューにおいて、どの専門職が PCC を担うのかについて不一致があることを報告しており、我が国においても、PCC の実践については同様の課題が生じる可能性がある。

津田(2020)が実施した自己免疫性疾患罹患女性の妊娠への支援に関する全国実態調査によると、主治医がカウンセリング受診を促すタイミングは、患者から質問があった時

が88.2%と最多であることが報告されている。つまり、医師は患者からの質問によって始めて妊娠支援を始めている。妊孕性は年齢とともに低下し、挙児希望の有無によって治療内容の変更が必要であるため(村島,2020)、患者の妊娠希望の有無をすみやかに把握する必要がある。しかし、今回の調査では、妊娠・出産、育児、避妊に関する相談を受けることに自信がない者がそれぞれ約8割と多く、PCCに関する情報を必要だと考えている看護師はほぼ100%であった。これらのことから、看護師を対象としたPCCの教育プログラムを実施し、患者に身近な看護師が積極的に患者のニーズを把握できるようにする必要がある。

わが国におけるPCCに関する研究は、適正体重や葉酸、禁酒・禁煙、感染症予防等の実態調査がほとんどであり(名草,2019)、2020年に一般市民にPCCを実施し、健康や妊娠に関する理解が高まったという報告があるが(永吉ら,2020)、PCCの実践に関する研究は依然として少ない。今後は、PCCの教育プログラムを実施し、実践者を増やしてPCCの効果を明らかにしていく必要がある。

#### 結論

看護師は、リウマチ膠原病患者へのPCCの必要性は認識しているものの、患者から相談を受けることに関して自信がなく、PCCについての情報を求めていることがわかった。妊娠希望の有無に関わらず、PCCを実施することは患者のQOLを高めると思われるため、看護師への学習機会の提供が必要である。

#### 謝辞

本調査に回答してくださった日本リウマチ看護学会会員の皆様に感謝申し上げます。

#### 利益相反

本研究における利益相反は存在しない

#### 文献

- Center for Disease Control and Prevention: Before Pregnancy,2021-09-21,  
<https://www.cdc.gov/preconception/index.html>Eudy,A.M.,  
McDanie,I.G., Clowse,M.E.(2018):  
Pregnancy in rheumatoid arthritis: a retrospective study, *Clinical Rheumatology*, 37, 789-794.
- 関節リウマチ(RA)や炎症性腸疾患(IBD)罹患女性患者の妊娠、出産を考えた治療指針の作成」研究班: 全身性エリテマトーデス(SLE)、関節リウマチ(RA)、若年性特発性関節炎(JIA)や炎症性腸疾患(IBD)罹患女性患者の妊娠、出産を考えた治療指針【医師用 CQ】 , 2021-09-21,  
[https://ra-ibd-sle-pregnancy.org/doctor\\_toward/index.html](https://ra-ibd-sle-pregnancy.org/doctor_toward/index.html)
- 村島温子 (2020): 【必携】専攻医と指導医のための産科診療到達目標 病態・疾患編【合併症妊娠】膠原病: 全身性エリテマトーデス, 関節リウマチ *周産期医学*, 50(8), 1447-1450.
- 名草みどり (2019): 成熟期女性のプレコンセプションケアに関する文献検討, *ヒューマンケア研究会会誌*, 10(1), 9-17.
- 岡本紀代香 (2016): 関節リウマチ患者が妊娠・出産・育児に感じた思い, 第46回日本看護学会論文集 慢性看護, 146-149.
- Phillips, R., Pell, B., Grant, A., et al(2018): Identifying the unmet information and support needs of woman with autoimmune rheumatic disease during pregnancy planning, *disease during*

pregnancy planning, pregnancy and early parenting: mixed-methods study, *BMC Rheumatology*, 2:21.

津田さやか (2020): 母児の予後からみた自己免疫性疾患罹患女性への妊娠支援～全国実態調査と富山大学における試み～, *周産期シンポジウム*, 38, 28-33.

World Health Organization (2020): Preconception care, 2021-09-21,  
<https://apps.who.int/iris/handle/10665/205637>

永吉円, 池内和代, 高田津美, 他: 助産師が行うプレコンセプションケアの効果及び意義の検討, *香川母性衛生学会誌*, 20(1), 13-23.